

浄泉寺報

第6号
2016年
秋彼岸



報恩講の前にした仏具の「おみがき」の様子

嫁の涙

浄泉寺住職 望月廣三

数十年前のことである。

嫁姑の争いが絶えないご門徒の家庭があった。お参りに行くたびに姑の嫁に対する愚痴を聞かされた。嫁は昼間働きに出ているので、彼女の愚痴を聞くことはで

きなかったが「ああ、これは大変や。戦況は行き着くところまできたかいな」と案じたことだ。

（ツラ）

争いの原因は互いの「業障」からだとなかった。嫁の婿、つまり息子を溺愛してきた姑は、夫婦仲の良い二人を見るたびに嫁に対して強い嫉妬心を抱いた。それは実に根深いものだった。

一方嫁は、そんな義母の気持ちを理解することができなかった。というより、気づかなかったといった方が適切だろう。無理もない、三十になったばかりの若い嫁に、姑の息子に抱く複雑な心境など理解できるはずがない。また姑は姑で、若い嫁の気持ち理解できない。いや、理解しようとしていない面がある。

「なんぼ言うても、あの嫁はわからんのやから」と姑が目三角

にした。原因は息子に対する口の利きようがぞんざいだとか、態度が横柄だとかである。つまり馬鹿にしていると腹を立てている。

「馬鹿にするお前は何者だ」と言わんばかりなのだ。が、嫁にも相当な言い分があるにちがいない。つた。「いやあ、嫁さんはご主人を馬鹿にしているとは思えませんがねえ。今の若い者はああいふ口の利き方をするんでないですか」と言ったものの、なんの慰めにもならないことは明白だった。：が、それから半年後、姑が肺癌を患い、この世を去った。その翌年の初盆の日のことである。装束を着けて中陰棚の前に座っていると、嫁が脇から姿を見せて、栗最中を盛った御華束を祭壇にそつとそなえた。その瞳に、涙が溢れていた。

浄泉寺住職（ペンネーム：望月廣次郎）の新刊小説『役僧たちの反乱』刊行！

人間を貶める〈差別〉はすでに、教義の使徒たちの意識を占めるまでにはびこっていた。宗門のただ中にいる住持でなければ描きだせるはずのない、稀にも稀なヒューマン小説。金時鐘氏推薦！

【単行本】200 頁
【出版社】作品社
【定 価】本体 1600 円（税別）
【発売日】2016 年 9 月 3 日

全国の主要書店他、Amazon.co.jp 等インターネットショップでもお求めいただけます。



若坊守のひとりごと

9月になり、京都では幼稚園の説明会が始まりました。早いもので春から娘も幼稚園です。以前、結婚したから「妻」になり、出産したから「母」になり、新しく羽織る役割が増えて、それらが「私」というものに覆いかぶさり、いずれ私自身が見えなくなるのではないか、と思ったことがあります。しかし実は私が思う「私」自体が不確かなもので、常に姿を変えながら空を流れる雲のように、分かったと思っても分からないのが自分なのかもしれません。人生も私も諸行無常。元々無いものに執着せずにその時々的人生を楽しみたいと思います。

(浄泉寺若坊守・釋尼彌名)

【報恩講のお知らせ】

十二月十日(土) 午後三時

●大逮夜法要(音楽法要)

●御伝鈔拝読：薄明かりの本堂で、親鸞聖人の生涯を読み上げます。今年は上巻を拝読します。

【法話】望月廣三住職



歌を交えた音楽法要



仏教讃歌の演奏



御伝鈔の拝読

十二月十一日(日) 午前十一時

●結願晨朝

●お斎：手作りのお膳を召上つていただきます。

●満日中法要

【法話】熊谷宗恵師(真宗大谷派元宗務総長)



熊谷先生による法話



満日中法要

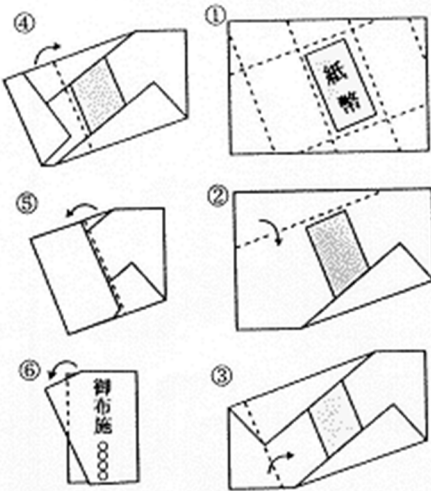


ご門徒による手作りの料理

※真宗門徒にとつて最も大切な法要です。ぜひ、お誘い合わせお参りください。

お内仏(仏壇)に座る ⑤ ～お布施の表書きの書き方～

御布施の包み方の一例



法事や葬儀などを勤める際、お寺に用意する金封の表書きはどうしたらよいかとの質問を受けますが「御布施」と書いていただくのがよいと思います。仏教では「法施」(仏法を説くこと)・「財施」(衣食を施すこと)・「無畏施」(畏れの無い安心を施すこと)の3つの布施が説かれます。仏事(お彼岸やお盆参りも含む)は、仏法を聞く大切な機会です。仏法を聞いたことに対する法への感謝の意味がありますので、「御布施」もしくは「御法札」と書くのです。

御経料・読経料・御霊前・回向料など書くと意味合いが違ってきます。参考までに半紙1枚で包める方法を記載しておきますので参考になさってください。もちろん、市販の金封でも構いません。

<発行元・問い合わせ>

真宗大谷派 楠林山 浄泉寺

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43 電話 0799-22-4798